

## 当地域の小児救急体制に係る検討の経過①

- 第3回取手・竜ヶ崎地域医療構想調整会議（R4.11.28）にて、富満委員（JAとりで総合医療センター院長）から、医師の働き方改革（≡医師の残業時間の削減）への対応のため小児救急体制の維持が困難になることから、関係者間で協議を行う必要があると提案があった。
- 上記を受け、R5.1.20にJAとりで総合医療センター主催による小児科時間外診療に関する取手地域の意見交換会が開催された。

### 【今後の方向性】

- ① 既存の輪番制等の圏域を越えた広域的な検討
  - ② 子育て支援の一環として保護者の不安に寄り添うような相談体制の整備
  - ③ 救急医療の適正な受診に関する保護者への啓発
- 第4回取手・竜ヶ崎地域医療構想調整会議（R5.3.15）にて議題とし、上記の課題、方向性について共有した。

## 当地域の小児救急体制に係る検討の経過②

---

- 当保健所主催による県南部小児二次救急医療機関（管内 6 病院、土浦協同病院、筑波メディカル病院）の意見交換会（R5.5.23）を開催した。参加医師からの主な意見は次のとおり。

① 小児救急体制の維持については、どの医療機関も採算面も含め苦慮している。

② 県南地域におけるJAとりでの役割は大きく、性急な集約・広域化は市町村との関係も考慮すると現実的でない。

③ 参加医師からはJAとりでへの出務等によりフォローができる旨の発言もあり、まずは、JAとりでから体制維持について具体的な医師数等の提示をしてもらい、協議をすすめていく。

## 当地域の小児救急体制に係る検討の経過③

- 引き続き当保健所主催による第2回第2回小児救急医療体制意見交換会（R5.9.27）を開催した。参加医師からの主な意見は次のとおり。

- ① JAとりでの宿日直許可は労基署からの回答待ち。許可がとれない状況を想定した準備が必要
  - ・常総地域の完全輪番化（総合守谷の当番日はJAとりでの診療は完全オフ）
  - ・受入れ時間の短縮
  - ・救急車の広域化など

- ② 稲敷地域4病院の小児科医師数も余裕がなく、JAとりでのカバーについては限定的。当該地域ではすでに筑波メディカルや土浦協同病院に出務をしている医師もあり、圏域を超えて、実質的に集約化のような体制により県南部の小児医療体制を確保している。

- ③ 受入れ時間の短縮を見据えて、#8000等の相談体制の充実や保護者への適正利用の啓発をすすめていく必要がある。

## 当地域の小児救急体制に係る今後の方向性について

---

○ R6.4の開始まで時間もないことから、労基署からの回答を待たずに、これまでの小児救急会議の意見を本協議会・調整会議の意見としてご承認いただき、事務局でできることをすすめていきたい。

○ 具体的には、第1回意見交換会で確認した3項目を軸に以下のとおり調整等すすめてよいか、ご審議いただきたい。

### 【今後の方向性】

① 既存の輪番制等の圏域を越えた広域的な検討

➡ 広域的な協議の場の設定を県担当課へ要望し、連携して調整していく。

② 子育て支援の一環として保護者の不安に寄り添うような相談体制の整備

➡ #8000等の相談体制の充実について県担当課へ要望するとともに、事務局（保健所）では更なる利用促進の啓発をすすめていく。

③ 救急医療の適正な受診に関する保護者への啓発

➡ 事務局が中心となり、地元自治体と連携しながら啓発をすすめていく。

